

International Youth Peace Seminar

実施報告書



International Youth Peace Seminar 2025 概要

International Youth Peace Seminar は、1977 年に「平和」ということについて深く考え、国際交流を図ることを目的にスタートしました。日本国内はもちろん、海外からもたくさんの人が広島に集まり、毎年プログラムを行っています。このプログラムを通して想いを語り合い、多くの価値観に触れ、お互いを認め合うことや平和の大切さを学びます。大学生を中心としたユースボランティア「国際ユースリーダー」たちがプログラムを考えて運営しています。今年で 44 回目を迎え、広島 YMCA を代表するプログラムとなっています。

本年度のテーマについて

2025 年度のテーマは『Pixelated Wa!』 -Journey Continues; Small Steps Towards Peace- です。ピクセルアートとは、小さな四角（ピクセル）のなかに色や形を描き、それらが集まることで一枚の絵となる表現方法です。ピクセルの数が多ければ多いほど、絵の輪郭や全体像はより鮮明になります。

私たちの人生の中で経験すること、学ぶこと、感じることは曖昧なものばかりです。同じような人生を歩んでいる人でも、起きる時間が違ったり、好きな食べ物が違ったり、それだけで違う考えや価値観を持っています。様々な人と出会う中で、違う色の違う濃さの違う形のピクセルが学びや気づき、経験として積み重なり、その人だけのピクセルアートができます。

平和は誰か一人で創り出せるものではありません。誰かにとって平和な世界は、他の誰かにとって生きづらい世界になりうるからです。だからこそ、自分と違う人生を歩んできた人たちとお互いに知識や経験を共有することが大切だと考えています。

ピクセルアートの醍醐味は曖昧さです。たくさんの考えを知ることで、自分の考えにも変化が生まれる。平和に対する考えが様々なピクセルと共に積み重なっていく。そんな相互関係のあるイベントにしたいという想いを込めました。

また、日本語にはたくさんの「わ」があります。平和の「わ」。自分自身を指す私の「わ」。笑うの「わ」。対話の「わ」。循環の「わ」。輪かの「わ」。そして、驚いた時に出る「わ!」。参加者自身が自分と向き合い、人と対話し、笑い合い、輪が広がる。その輪が循環することで平和につながるのではと考えています。

実施要項

- 【名 称】 International Youth Peace Seminar 2025
- 【期 間】 2025 年 8 月 5 日（火）～8 月 9 日（土） 4 泊 5 日間
- 【場 所】 広島県広島市、廿日市市
- 【参加人数】 45 名
- 【活動内容】 被爆者証言、平和記念式典参列、ワークショップ、慰霊碑巡り、フェアウェルパーティー等
- 【募集対象】 国内外の高校生・専門学校生・大学生相応年齢
国際交流に関心のある方（語学力は問わない）

International Youth Peace Seminar 旅程表

	日付	時間	スケジュール	場所
1	8/5(火)	12:00 13:00 14:00 15:30 17:30 19:00 20:00 21:00	受付開始 プログラム開始 平和記念公園へ移動（徒歩 20 分） 平和公園碑巡り 被爆者証言 平和記念資料館見学 夕食 振り返り チェックイン 入浴 ※時間は当日ご案内します 消灯	広島 YMCA 3 号館 2 階 多目的ホール 平和記念公園 おりづるタワー内研修室 平和記念資料館 おりづるタワー内研修室 いかわ旅館
2	8/6(水)	5:30 6:30 8:00 9:00 10:00 11:00 12:30 13:30 15:15 16:45 18:00 19:00 20:00	チェックアウト・集合 平和記念公園へ移動（徒歩 30 分） 式典参列席入場開始・着席 待機 平和記念式典開会 折り鶴献納・写真撮影 YMCA へ移動・休憩 アイスブレイク・ワークショップ 昼食 グループワークセッション① 「平和の灯ろう流し」オリエンテーション 平和記念公園へ移動（徒歩 20 分） 灯ろう流し 貸切バスで移動（60 分） 夕食 入浴 ※時間は当日ご案内します 消灯	いかわ旅館 平和記念公園 広島 YMCA 3 号館 2 階 多目的ホール 平和記念公園 もみのき荘（廿日市市）
3	8/7(木)	7:00 9:00 10:00 12:00 13:00 15:30 18:30 19:30	朝食 アイスブレイク ワークショップ 昼食 グループワークセッション② ゲストワークショップ【Into】 夕食 YMCA 紹介タイム① 入浴 ※時間は当日ご案内します 消灯	もみのき荘（廿日市市）
4	8/8(金)	7:00 9:00 10:00 11:00 12:00 13:00 15:30 17:30 19:00	朝食 YMCA 紹介タイム② グループワークセッション③ Fun Activity 昼食 グループワークセッション④ グループプレゼンテーション カルチャーフェスティバル 夕食 入浴 ※時間は当日ご案内します 消灯	もみのき荘（廿日市市）
5	8/9(土)	7:00 8:00 9:00 14:00 15:00 15:30 15:45 17:30	チェックアウト・朝食 出発（移動 貸切バス 60 分） 宮島口 （フェリー 10 分） 宮島／厳島神社・自由散策・各自昼食 （フェリー 10 分） 出発（移動 貸切バス 60 分） 広島 YMCA 着 15:30 派遣礼拝 15:45 Farewell Party/Ceremony 解散	もみのき荘（廿日市市） 廿日市市宮島 広島 YMCA

I 日目 8月5日(火)

◆ 開会式

開会式は広島 YMCA 国際ユースリーダーの紹介から始まり、参加 YMCA、個人参加者の順で行われました。その後、今回の YPS のテーマの発表がありました。2025 年のテーマは「Pixelated WA! -The Journey Continues, small steps toward peace-」でした。日本語の「わ」には、たくさんの意味が込められており、参加者全員がたくさんの「わ」に出会い、戦争と平和について学ぶのはもちろんのこと、たくさんの人と出会い、交流して自分の世界を広げる機会にしてほしいというリーダーの想いが詰まっています。開会式の最後には広島 YMCA の総主事である家守治司氏から参加者に言葉が贈られました。



◆ 慰霊碑めぐり

開会式の後、平和公園に向かい、グループに分かれて慰霊碑巡りを行いました。①原爆ドーム②相生橋③原爆供養塔④韓国人慰霊碑⑤原爆の子の像⑥平和の灯火⑦死没者慰霊碑 の 7 箇所を訪れ、国際ユースリーダーが慰霊碑について紹介しました。原爆の子の像の近くでは原爆展として原爆について写真と文でまとめられた資料が誰でも見られるように展示されており、訪れたグループは時間が許す限り原爆の悲惨さを学びました。



◆ 被爆者証言

今回証言いただいたのは箕牧智之（みまきとしゆき）氏。当時 3 歳だった箕牧氏は 1945 年 3 月に東京大空襲に遭い、同年 5 月に広島へ疎開されましたが、原爆投下の翌日に広島市内に入り入市被爆されました。現在では日本被団協の代表委員3人のうちの 1 人として、核兵器廃絶を訴え続けられています。戦後 80 年で被爆者が減少しているなか、当時の経験、情景、想いを聞く貴重な機会でした。ユースリーダーも参加者も真剣に聞き入っており、これから時代を作っていく若者が戦争のない世にしていくには何をすればよいのか、原爆を次の世に残していくためにどうすればよいかを国、言語関係なく参加者が考える良い機会となりました。



◆ 資料館見学

被爆者証言のあとは、慰霊碑巡りのグループに分かれて資料館まで移動し、資料館を見学しました。自由見学という形をとり、ひとりひとりがあの日の出来事を、惨劇を、哀しみを見つめました。初めて訪れた参加者やリニューアル後初めて訪れた参加者もあり、それぞれが展示品を見ながらあのきこ雲の下にいた人々のことを思い、戦争の悲惨さ、平和の尊さを感じることが出来ました。最後に被爆アオギリを見学しました。被爆して80年たった現在でも元気に葉をつけるアオギリに、生命の強さを感じました。



◆ ピースレター

1日の締めくくりにピースレターを書きました。ピースレタープロジェクトとは EARTH Hiroshima という団体が主催しているもので、一人一人にできる平和への小さな一歩として、大切な人に手紙を贈るプロジェクトです。『手紙を書く人も受け取る人も優しい気持ちになれる「手紙」が全国に広がれば、きっと世界は少しずつ、やわらかく変わっていくはず』というコンセプトのもとに行われています。1日目は YPS 最終日の自分に向けて手紙を書いてもらいました。



2日目 8月6日(水)

◆ 平和記念式典

朝5時にホテルアーバンイン、いかわ旅館をそれぞれ出発し、平和記念公園へ向かいました。到着後、日本人席と外国人席に分かれて列に並びました。式典は8時に始まり、式辞や献花が続き、8時15分に黙祷を捧げました。それぞれが平和への想いを込めて黙祷することが出来ました。また、広島YMCAには毎年各地から平和への願いを込めた子どもたちの折り鶴が届けられます。今年もYPSの参加者によって、多くの想いを託した折り鶴が献納されました。



◆ 新聞紙タワー

アイスブレイクとして新聞紙タワーをしました。新聞紙タワーとは、チームビルディングの一つで、参加者が新聞紙を使ってできるだけ高いタワーを作るというゲームです。昨年も新聞紙タワーをしたのですが、新聞紙を燃えるゴミではなく、資源ごみとして出すためにテープ等使わずにタワーを作ってもらいました。とても難易度が上がりましたが、それぞれのグループで試行錯誤し、土台からしっかり組み立てるチームだったり、細長い棒を作りとにかく高さを出すチームだったりとても面白かったです。時間制限がある中で、どのグループも工夫してたくさん話し合い、タワーを完成させることが出来ました。この活動を通して、チームワークの重要性を再確認し、お互いの意見を尊重しあうことが出来ました。



◆ Heroes

アイスブレイクの後、「Heroes（英雄紹介）」というワークショップを行いました。このワークショップは、参加者がそれぞれの国や地域の歴史に貢献した、人物を紹介し合う活動です。ただ名前を紹介するだけでなく、「なぜこの人物が英雄だと思うのか」「どんな良い影響を与えたのか」といった物語に焦点を当て、深い学びと対話を生み出すことを目指しました。ワークショップでは、いくつかのルールを大切にしました。相手の国を批判しないこと、戦争やセンシティブな歴史に深く入りすぎないこと、そしてお互いの意見を否定せず、むしろ質問を通して理解を深めていくこと。こうしたルールを共有したことで、参加者全員が安心して話せる「尊重の場」を作ることができました。紹介された英雄たちは、それぞれの背景や価値観を反映しており、どの話もとても興味深く、感動的でした。歴史の教科書には載っていないけれど、人々の暮らしや未来に



大きな影響を与えた人物たちの存在を知ること、お互いの文化への理解も深まりました。

◆ Peace Motif ①

「Heroes」で紹介された英雄たちをさらに深く掘り下げる形で、次に行ったのが「Peace Motif」というワークショップです。この活動では、グループごとに「もし、自分たちが紹介した英雄たちが暮らす国をつくるとしたら、どんな国になるか？」というテーマで理想の国づくりに挑戦しました。まず初めに、各自が「自分にとって平和とは何か？」という視点から、平和をつくるための要素を考えました。そこには「相互理解」「教育の充実」「自由な意見交換」「環境との共生」など、さまざまな視点からの意見が集まりました。その後、それぞれのアイデアをシャッフルして共有し、グループごとに話し合いながら5つの要素を選びました。選ばれた平和の要素をもとに、各グループは国の法律、国旗、伝統文化、制度などを自由な発想で考えていきました。誰が何を担当するかを自発的に決め、アイデアを出し合いながら、個性豊かな“理想の国”が少しずつ形になっていきました。この時間では、まだ国の完成までは至りませんでした。それぞれのグループが土台となる価値観を共有し、創造的なアイデアを活発に出し合うことができました。「平和とは何か」という大きな問いに向き合いながら、自分たちの価値観を言語化し、他者とつなぎ合わせていく過程そのものが、非常に意義のある体験だったように思います。



◆ 平和のとうろう流し

8月6日には、とうろう流しに参加しました。広島YMCAでは、毎年、アルメニアや台南YMCAなど、さまざまな国の子供たちが平和への願いを込めて描いた絵を、とうろう流して平和のメッセージとして流し、祈りを捧げています。今年も、色鮮やかに描かれたとうろうを持ち、平和公園へ向かいました。あの日、炎から逃れようと多くの人が命を落とした元安川に、とうろうを流し、平和への深い祈りを込めました。とうろうが静かに水面を流れていく様子を見ながら、一つひとつの願いが確かに未来へと繋がっていくことを感じました。国や言葉が違っても、平和を願う気持ちは同じであるということを実感し、改めて「伝えること」「共に祈ること」の大切さを学びました。この時間は、過去と向き合い、今を生きる私たちが未来に何を残せるのかを考える、貴重なひとときとなりました。



3日目 8月7日(木)

◆ Ito

「ITO」はグループに分かれてあるテーマを数字順に並び替えるゲームです。今回は1～50まで書かれた数字をランダムに取り、その数字がそのテーマの何番目に該当するのか「たとえ」ながら協力して順番通りに並べる意思疎通しさらに仲を深めました。テーマは「世界的に有名なキャラクター」で行いました。グループのメンバーはそれぞれバックグラウンドが異なるため知らなかったキャラクターを知ることができたり、このキャラクターはどの国も同じくらい有名だと共感していたりしました。英語を介しながら表現して意思疎通を図っており、どのようにしたら伝わるのかを考えている様子や順番通りに並べられた時の達成感溢れる表情が各チームで見られました。



◆ Mother's Lullaby

「自分以外の視点から平和を考える」をテーマにグループワークショップを行いました。ヒロシマにある遺構になりきり、その遺構のストーリーを考えることを通して戦争や平和について考えました。①原爆ドーム②被爆アオギリ③韓国人犠牲者慰霊碑④平和記念公園、以上4つのなかから自分のなりきりたいモノを選択し、実際に見学したのちワークショップを行いました。いまを生きる自分たちが知るはずのない戦争を伝え続けてくれているモノに寄り添い、「じぶんごと」としてみることで平和学習を行いました。グループワークでは言語の壁を越えたコミュニケーションや思いやりや村長が感じられる意見交換が見られました。参加者からは「慰霊碑の目線にたって戦争について考えるというのが今までにない新しい視点の平和学習だった。」という声が寄せられました。



◆ Peace Motif ②

この日のピースモチーフでは前日までにランダムに選んだ5つの平和の要素を基にその国の象徴とも言えるような「国旗」、「法律10コ」を付け足し、どのようにしたら自分たちが住む国は楽しく、幸せにできるかを考えながら創っていく活動を行いました。それぞれが考える理想は似ているようで少しずつ異なっており、どのようにしてお互いに折り合いをつけていか話し合いを通して、各班がそれぞれ国を創り上げあげました。また、「国旗」のデザイン、「法律」の意味を考えてもらうことで発表の際に他のグループに伝わりやすくなりました。



◆ Loading

任意団体『into』様にゲストワークショップを行っていただきました。into は「言葉にするワークショップ」を 2024 年から多数開催しており、主催するワークショップのコンセプトとして「自分に帰る」を掲げています。今回のワークショップ Loading は、「自分とは何か」という問いに向き合いながら自分自身の不完全性を認識するという目的のもと構成されていました。アイスブレイクでは、全員で全力疾走！アイスブレイク後のみんなの顔は笑顔で溢れていました。その後のワークは、自分を構成する要素を洗い出す「8×8」、自分と同じ要素を持つ人と繋がる「circle of us」、自分の未完成度を数値化する「X% of you」、自分を振り返る「you, as pixel」と 4 段階で行われ、自分に対する解像度を高めました。言語化することで、無意識の中の知らなかった自分と出会うことができました。



◆ YMCA 紹介 ①

3 日目最後のプログラムは YMCA 紹介でした。この日の YMCA 紹介は広島 YMCA に始まり、ICCPJ に参加していた Ling さん、東京 YMCA、成都 YMCA、横浜 YMCA と続きました。Ling さんからは ICCPJ についての発表があり、初めて知る内容も多く、とても良い学びの機会となりました。東京 YMCA の皆様は、YMCA 紹介に加えてクイズを用意してくださり、参加者全員で大いに盛り上がりマシタ。成都 YMCA の皆様は、ビデオも用いながら分かりやすく説明してくださり、国外 YMCA の活動を知る良いきっかけとなりました。横浜 YMCA の皆様は、YMCA 紹介だけでなくダンスのパフォーマンスを披露くださり、会場全体が楽しく温かい雰囲気になりました。



4日目 8月8日(金)

◆ YMCA 紹介②

4日目はYMCA紹介から始まりました。今回は熊本YMCAに始まり、ボンベイYMCA、台南YMCA、大阪YMCAと続きました。熊本YMCAの皆様は、紹介に加えてクイズも用意してくださり、熊本YMCAについてより深く知ることができました。ボンベイYMCAの皆様は実際の写真を使って活動を紹介してくださり、国外YMCAの取り組みをより具体的に知ることができました。台南YMCAの皆様は写真や動画を活用しながら分かりやすく紹介してくださり、活動の様子を鮮明にイメージできました。大阪YMCAの皆様は大阪YMCA内の各YMCAや学校のついて詳しく説明してくださり、理解が一層深まりました。



◆ Mytopia ①

「自分にとっての平和」とは何かを架空の国を作り出すことで考え、共有するMytopiaというグループワークを開催しました。

Day1, Day2, Day3で行われたワークショップで考えた英雄、平和の要素、法律がこのワークショップでのキーポイントになります。セッション1では、まず、自分だけの自由でわがままな国を作ります。セッション2では、自分の国をグループメンバーと共有しあい、メンバーの国をくっつけて一つの大きな国を作ります。次に、その国はすべての人が幸せに暮らせるのかを考えます。キーワードは「この国にいて住みづらさを感じる人」です。すべての人が等しく幸せだと感じる国づくりはとても難しいですが、これを放棄してしまうと独りよがりな平和しか生み出すことが出来ません。



◆ おはじきリレー

お箸を使い、おはじき(1点)とビー玉(3点)を取り合う「おはじきリレー」を開催しました。8チームのおはじきやビー玉の争奪戦です。敵チームのカップの中の物も取っていいというルールもありました。メンバーを応援する声も聞こえました!盛り上がりました。



◆ Mytopia ②

Mytopia①に続いて、セッション4では、より多くの視点から自分たちの国を見てもらうべく、全7グループの国をお互いに見合い、意見交換を行いました。自分以外の視点で平和を考える、他者の考える平和を知り認め合う、多角的な視点から世界の平和を考えることができたワークショップだと思いました。



◆ Mytopia Presentation

Mytopia の発表では各自が考える「こんな国だったらいいなあ」という思いを各班の中で話し合いまとめ理想の国を創りました。そこから他の班から他の人も住みやすくなるための意見をもらった上で、自分たちが考える理想の国を次の3つの観点からまとめて発表しました。観点は①あなたの国に住むメリット、②あなたの国に住むデメリット、③あなたの国の最大のアピールポイントです。誰もが分かるように日本語、英語、中国語の3か国語で発表する班もありました。各班のメンバーが考える思いや考え、また他の人からもらった考えや意見を取り入れて、話し合いを沢山行い、お互いの違いを尊重し合い、認め合っていることが発表から伝わってきました。



◆ Culture Festival

Culture Festival の始めはソーラン節を参加者全員で踊りました。初めて踊る人もいましたが、全員で楽しく踊ることができました。その後は伝統衣装に着替えて交流を楽しみました。各国・地域の伝統衣装はとても美しかったです。台南 YMCA と成都 YMCA が教えてくださった YMCA ダンスをみんなで踊り、台南 YMCA が考えてくださっていた手紙のワークを行いました。それぞれが未来の自分に向けてのメッセージを思い思いに綴りました。続いて、広島 YMCA 国際ユースリーダーの Martin がメキシコのダンスを教えてくれ、みんなで踊りに挑戦しました。足のステップがすごく難しかったです。貴重な機会となりました。その後、同じく国際ユースリーダーのおかモンリーダーと Moe リーダーで二人羽織を披露し、会場が笑いに包まれていました。出し物が終わった後はみんなでクイズ大会を行いました。チーム対抗で広島や広島 YMCA 国際ユースリーダーに関するクイズを出題しました。チームで協力しながら優勝を目指して頑張りました。



5日目 8月9日(土)

◆ ラジオ体操

朝は毎日 6:00 からラジオ体操。任意参加だったラジオ体操ですが、毎日たくさんの方が参加してくれました。ラジオ体操で最終日も元気にスタートしました。単なるストレッチではなく、みんなで一緒に体を動かし、日本の日常文化の一部を共有する時間でした。最終日ということもあり、一つの小さな章を締めくくのような感覚がありました。それはエネルギーを与え、リズムを作り出し、小さな伝統が人と人をつなげることを改めて実感させてくれました。



◆ 宮島訪問

宮島訪問は、この日のハイライトの一つでした。大鳥居や厳島神社を実際に目にするのは、写真で見るとは比べ物にならないほど圧倒的でした。自由に散策できたことも魅力で、地元の食べ物を試したり、友だちと歩いたり、景色を楽しんだり、それぞれの時間を楽しみました。単なる観光ではなく、YPS というグループの中でも個々で楽しみ方を選び楽しむことのできる素晴らしい時間になりました。



◆ 閉会礼拝

閉会礼拝は、みんなに静かに立ち止まり、YPS を振り返る瞬間を与えてくれました。五日間の活動を終えた後に呼吸を整え、感謝し、これまでの体験を考える機会となりました。祈りを共にすることで、平和とは大きな理念やプロジェクトだけではなく、まず自分の内面から始まるのだと感じました。感謝や命への敬意、互いを大切にする心が平和の基盤になるのだと気づかされました。



◆ フェアウェルパーティー

フェアウェルパーティーは楽しくもあり、感動的でもありました。最後の数時間をおしゃべりしたり、連絡を交換したり、写真を撮ったりしながら過ごすことができました。特にサプライズ動画は心を打つもので、この数日間でどれほど多くの出来事があったかを実感させてくれました。振り返りを共有したことで、それぞれが同じセミナーを異なる形で経験したことが明らかになり、より意味のあるものになりました。お菓子を食べながら会話を楽しむというシンプルな形ではありましたが、この旅を締めくくるとにふさわしい時間となりました。



参加者の声

被爆者証言を聞いて被ばくの悲惨さを学んだ。
互いの文化や歴史、罪を認め合う「相互理解」が
国際社会における宗教や民族間の対立を
解決する上で重要であると感じた。



最終日、本当に帰りたくないくらいみんなと
仲良くなれて嬉しかったし、参加して良かったな
と心の底から思えるほど楽しかった。



I learned that when you respect and
understand others, others will respect
and understand



話し合いの大切さを学んだ。話すことによって
争いを回避することができるし、どんなに難しい問題
でも話し合いによって解決することができると感じた



他の人の色々な考えに触れることで、
共感したり、反発したりと、より自分の考えが
鮮明に見えるようになった。



本当にみんなが友達になったら戦争は起こらないと思うから、
このよう活動をもっと世界に知ってほしいと思った。



服部 唯音 (Yuine リーダー)

まず初めに、今年の YPS2025 に携わってくださった参加者の皆様、スタッフの皆様、共に YPS を作り上げ上げてくださったリーダーの皆様、支援してくださったワイズメンズクラブの皆様にご心よりお礼申し上げます。

私は、コロナ禍により一度止まってしまった YPS を先輩方と再始動させた 2023 年から、統括を務めた 2024 年、そして今年は、3 回目の YPS でした。今年は、沢山の心強い仲間が増え、YPS 開催を毎日楽しみにしていました。まず初めに、リーダー達と YPS のタイトルを考えた際に、これまで私達が YMCA での体験を通して感じた絆や「輪」を参加者の皆様にも YPS を通じて、感じてもらいたいと考えました。昨年のテーマは、「絆」-Let's share the baton of hope with "TOMODACHI"-ともだちと希望のバトンをつなげよう でした。今年は、そのテーマから発展させ、YPS で出会った友達と絆の「輪」を紡ぐことで、私たちの考える小さな平和を形にしていきたいという思いを込めました。また、「WA」という言葉にはたくさんの素敵な意味があることに気がつきました。MTG を行っていく中で、リーダー、一人一人の YPS に対する想いが込められた、「私」・「話」・「笑」・「和」・「環」・「輪」の 6 つの「PIXELATED WA!」が集まりました。こうして生まれたテーマ「PIXELATED WA!」には、小さなピクセルが集まって大きな絵を描くように、YPS に参加して下さる皆様の素敵な個性と掛け合わせて、平和を構築できるような場所にしたいと考えました。「私」自身から平和の物語は始まり、対「話」を通じて互いを理解し、共に「笑」うことで、空気が「和」む、その温かい雰囲気が循環「環」し、周りに「輪」として繋がっていく。そうして初めて、一人からみんなへと繋ぐ大きな平和のイメージが形になっていくのだと信じて今年のタイトルにしました。

今年の YPS では、まさにその「WA」を実感する瞬間が沢山ありました。今年はインターンがあり、全日参加は惜しくとも叶いませんでしたが、実は 2 日目に、平和記念資料館でのインターンが終わったあと、走って、灯籠流しを行う元安川へ向かいました。そこでピンクのシャツを着たリーダーや参加者の皆さんを見つけた瞬間、胸が熱くなり、早く合流したいという気持ちが高まりました。その夜は YPS に参加できることが楽しみで、なかなか寝つけませんでした。そして、ついに 3 日目の朝から合流し、参加することが出来ました。皆さんの前で自己紹介をした時、昨年も参加して下さったメンバーが 2 人いることに気がつきました。昨年の YPS から引き続き再会出来たことにとても嬉しくなりました。また、「Mother's Lullaby」のワークの際に驚いたのが、班のメンバー全員がとても積極的に意見を出し合って、とても仲が良かったということです。海外から来たメンバーに率先して翻訳をしてくれる仲間や、やさしい日本語を教えてあげる仲間など、温かい雰囲気に包まれるその瞬間がとても大好きでした。YPS を通じて、とても嬉しかったことを今でも覚えています。それは、参加者の皆さんが YPS のピンク色のシャツに、メッセージやイラストを描いていたことです。その素敵なアイデアやカラフルに彩られたシャツを、見ていると本当に心が温かくなりました。

私が毎年、リーダーとして YPS を創ろうと頑張れる理由はなんだろう、と考えてみました。すると答えはすぐに見つかりました。YPS は私にとって大事な「居場所、であるということです。これまでずっと、世界中から参加してくださる方々が、毎年集えるような、素敵な居場所になって欲しいという想いを胸に頑張ってきました。そして振り返ってみると、私自身にとってもかけがえのない大切な居場所になっていました。だからこそ、これからも YPS を開催することで、大切な「居場所」として守り続けていきたいと強く思います。そして、YPS で出会った仲間が、これから先の人生でも関わり合い、世界中へと繋がる輪につながっていくことを心から願っています。



YPS で出会った仲間との時間を思い返すと、以前参加した日中韓 YMCA 平和フォーラムで田口努総主事が話してくださった言葉を思い出します。

「この平和フォーラムが終わって、それぞれ自分の生活に戻った時に、テレビやニュースなどで今回知り合った仲間の出身地が地震や災害に見舞われた時、友達は大丈夫かと不安になり、心配になるでしょう。そして、困っていたら助けようとするでしょう。それは、今回の平和フォーラムを通し、みなさんが大切な仲間となったことで、相手を思いやることが出来るようになったからです。」

この言葉に私は深く心を動かされました。YPS で生まれる仲間とのつながりも、同様に人を思いやる力を育むものであると実感します。YPS で出会った仲間のことを思い浮かべ、「みんなは元気かな」「また会いたい」という気持ちそのものが、すでに平和の一步であると確信します。

最後になりますが、YPS で生まれたかけがえのない絆を、これからの日々の中でも大切にしてほしいと思います。そして、それぞれの場所で新しい「WA」を少しずつ広げていってくれることを、心から願っています。私たちは、世界中にともだちを創ることで平和を1歩1歩創造することができると信じています。なぜ、ともだちを創ることで平和を創造することができるのか、それはともだちを攻撃しようとは思わないからです。そして、「友達のいる国とは絶対に戦争はしない。」と考えるからです。友達づくりが平和の基盤であると信じ、私たちはこれからも平和活動に取り組んでいきます。そして、私はこれからも国際ユースリーダーとして、世界中から広島に集う若者たちと平和を分かち合えるよう、この YPS を続けていきたいと思います。広島 YMCA のユースリーダーは、参加者の皆様の幸せを心から願っています。またお会い出来る日を楽しみにしています。

今年も本当にありがとうございました。



白石 夏奈 (Okamon リーダー)

私はこのプログラムに2回目の参加となりましたが、今回、リーダーという立場から全体を見渡すことで、前回とはまた違った学びや気づきを得ることができました。

改めて感じたのは、このプログラムは運営側だけで成り立つものではなく、参加している一人ひとりの思いや行動によってつくられているということです。私たちリーダーはもちろん、サポートしてくださるスタッフの皆さん、そして何より参加者たち自身が主体的に関わることで、セミナー全体がより意味のある、感動的な時間へと育っていったのだと実感しました。

最初はみんなお互いに緊張していた様子もありましたが、言葉や文化の違いを越えて、次第に積極的に意見を交わし合い、笑顔で語り合うようになっていく姿が印象的でした。それぞれの考え方や背景を尊重しながら、対話を通じて理解を深め合っていくプロセスは、「平和とは何か」を実感する貴重な機会となりました。セミナーの中で多くの参加者が友情を深め、「世界中に友達をつくることは平和につながる」というメッセージを、まさに自らの行動で体現していたことも強く心に残っています。この5日間の経験は、ただのプログラム参加にとどまらず、これからの平和な社会づくりに向けた小さな一歩であり、今後の自分の生き方にも影響を与える大切な時間となりました。



浅野 由梨香 (Yukari リーダー)

YPS2025 で私はたくさんの「WA」に出会いました。わたしがいちばん印象に残った「WA」は輪です。国境、年齢、性格など、一人として同じバックグラウンドを持たない参加者たちが話しあい、ときには和み、笑いあい、気づけば一人ぼっちのいない大きな輪が出来ていました。そんな素敵でかけがえのない瞬間を見ることが出来てとても嬉しかったです。新しい「WA」に出会う、もともとある「WA」を深める、そんな「WA」な環境を作る側の一員として、すごい人しかいない広島 YMCA 国際ユースリーダーたちと一緒に YPS2025 に携われたことは私のこれからの大きな糧になりました。私はある人に声をかけてもらって広島 YMCA 国際ユースリーダーになったのですが、広島 YMCA 国際ユースリーダーたちにも、その人が私と広島 YMCA 国際ユースリーダーを繋げてくれなかった

らこのたくさんの「WA」に出会えることはありませんでした。わたしが貰った「WA」をたくさんの人に繋げたい、YPS2025 で私がひっそり抱いていたスローガンです。私たちから繋がっていたら嬉しいです。私はありがとうが言い切れないくらいたくさんの「WA」と繋がりました。この「WA」を大切に平和を本気で考え、繋げ、発信したりする広島 YMCA 国際ユースリーダーの活動をこれからも頑張っていきたいです。本当にありがとうございました。



藤本 萌 (Moe リーダー)

今年私は後輩のゆかりに誘ってもらって YMCA の存在を知り、各活動に参加し、気づいたら YPS の準備を始めていました。怒涛の半年間だったと思います。

YPS を振り返ると周りのリーダーやスタッフの方に頼りっぱなしだったと思います。「初めてだし」を言い訳にして甘えていた点が私の最大の反省点です。ですが、反省点以上に学びが沢山あった準備期間を含めた YPS でした。

一期一会の出会いもあり自分の人生の中に沢山の刺激が加わり、自分を鼓舞することに繋がったと思います。出会いも含めて「繋」というのを個人的に普段から意識しています。これから繋げること、誰かに思いを繋げること、何かと何かを繋がられるような人になること、今回の活動の中で初めて出会った人同士が友達になる瞬間や考えや思いの点が線として繋がった瞬間もありました。そのかけがえのない時間をリーダーやスタッフの皆さん、参加者の方と共有することができて幸せでした、ありがとうございます。

「準備 8 割」これは大学の恩師の先生の口癖で教育を学び授業を実践する者として大事にしている言葉です。ですが今回の YPS で出会った方から「準備 9.5 割」という言葉をいただきました。準備の時から楽しむこと、そしてそれくらいの準備をして本番もし何か失敗が起こったとしてもそれは価値がある失敗で、確実に次に繋がるものになるという意味です。これらの言葉と経験を胸に来年の YPS、そしてこれからの自分の人生に最大限に生かして参りたいと思います。ありがとうございました！



吉川 小百合 (きーさん リーダー)

今回が初めてリーダーとしての参加でした。私は 2024 年の YPS を見学して、生まれ育った広島をこのように発信する企画があるのかと感激し、国際ユースリーダーになりました。実際やってみて、準備も大変だったしとにかく時間が足りませんでした。1 から計画するのでひとつひとつを綿密に練らないといけず、リーダーの大変さが身に沁みました。

でもそのおかげで参加者の皆さんが YPS を楽しんでくれて、また来たいって言うてくれて頑張ったかいがあったと思いました。私は、これからも原爆を知らない人に、次の世代につなげる活動をしていきたいです。そのひとつである YPS をもっとより良くなるように進化させていきます。



加家壁 海斗 (Kaito リーダー)

僕は今回が初めての参加でした。始まる前までは役に立てるかどうか、参加者の皆さんに楽しんでもいただけるか不安でしたが、リーダーの皆さんをはじめたくさんの方にサポートしていただき僕にとって最高の二日間でした。

次は僕がリーダーの皆さんを助けられるようにレベルアップしていきたいと思います。リーダーの皆さん、参加者の皆さんありがとうございました。



Martin Rogelio Bustamante Antonio (Martin リーダー)

The Youth Peace Seminar 2025 in Hiroshima was an unforgettable experience. In just five days, we shared culture, learning, and friendship that will stay with us for a long time. Every day, every activity carried a special meaning, and gave us the freedom to explore, laugh, and create memories with friends. This seminar showed that peace is not only a big dream but something we can practice in our daily actions—by sharing, caring, and understanding each other. It was a powerful reminder that even small connections can create hope for a better future.



山路 はるか (やまじいリーダー)

今、YPS2025 を振り返って一番鮮明に思い出せるのは、参加してくださった皆様の笑顔で笑い声で真剣な表情です。よく「イベントは参加者がいなければ成り立たない」と言われますが、この YPS ほどそれを実感したことはありません。皆様の他人に対する思いやりが、自分の考えを伝える勇気がこの YPS を素晴らしいものにしてくださりました。本当に感謝しかありません。ありがとうございました。

私にとって YPS2025 は国際ユースリーダーとして参画する最後の YPS でした。正直、すごく気負っていました。自分がやらなきゃいけない、引っ張らなきゃいけないと思っていました。そんな私の荷を下ろしてくれたのは、共に YPS2025 を創り上げたリーダーたちでした。国際ユースリーダーは十人十色という言葉がビシッとハマるくらい異なる特性を持っています。だからこそ、それぞれが得意を發揮してそれぞれの不得意を補い合ってこの YPS2025 を創り上げることができました。ありがとう。

リーダーたちは新たな経験をして、新しいリーダーたちと一緒にまた YPS を作り上げていきます。YPS はこれからも進化し続けます。YPS2026 でまた、皆様にお会いできることを楽しみにしております。



みつかる。つながる。よくなっていく。

公益財団法人 広島YMCA

〒730-8523 広島市中区八丁堀7-11 Tel 082-228-1151 Fax 082-211-0366